

Minami Kyushu University Syllabus									
シラバス年度	2024年度	開講キャンパス		都城キャンパス	開設学科		環境園芸学科		
科目名称	教育社会学					授業形態	講義		
科目コード	410331	単位数	2単位	配当学年	2	実務経験教員		アクティブ ラーニング	○
担当教員名	植村 秀人							ICT活 用	
授業概要	<p>本授業科目は、教育の状況について社会や法制度の関わりからの視点から講義を行う。特に、教育と社会の相互関連について学ぶことで、両者の相互関係が重要であることについて学習することになる。</p> <p>本講義では、教育と法制度との関係、その後、教育・学校と社会の関わり、社会の変化による教育への影響、学校教育の課題、学校の危機管理、地域と学校の連携について講義する。これらの講義を通して、教員としてどのような教育をしていくべきかについて受講者各自が考察を行なう。</p>								
関連する科目	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 1年の教職課程開講科目（教職課程履修要項別表7及び8）について履修し単位を修得していること。</li> <li>2. 1年の学科専門科目のうち必修科目は単位修得していることが望ましい。</li> <li>3. 今後の履修科目を考慮して教養科目・学科開講科目の履修状況を良好としておくことが望ましい。</li> <li>4. 本科目履修後は、教職課程履修要項に基づいて履修をすること。</li> </ol>								
授業の進め方 と方法	<p>本授業は、講義形式で実施する。一部の回では、受講者をグループ分けし、グループディスカッションや課題発表を予定している。このより受講生が主体的に学ぶようにする。</p>								
授業計画 【第1回】	<p>第1回：はじめに-教育と社会のかかわり（近年の教育・学校課題の確認） 教職課程における本講義の位置づけを理解するとともに、社会と教育の関係に着目する。</p>								
授業計画 【第2回】	<p>第2回：教育と法制度Ⅰ～公教育とは何か？～ 公教育の概念及び学校制度について知る。</p>								
授業計画 【第3回】	<p>第3回：教育と法制度Ⅱ～憲法と教育基本法～ 憲法と教育基本法で保障されている学ぶ権利について知ると同時に、学ぶ事が他の人権を守ることに繋がることを知る。</p>								
授業計画 【第4回】	<p>第4回：教育と法制度Ⅲ～学校教育法とその他関連する法律、著作権も含むについて～ 学校教育に関する各種法律について知る。</p>								
授業計画 【第5回】	<p>第5回：教育と法制度Ⅳ～教育の行政機構～ 公教育を行う国や地方自治体の機関について知る。</p>								
授業計画 【第6回】	<p>第6回：学校の安全Ⅰ～学校安全に関する基本的な事項～ 児童生徒の健康・安全を守る規定などについて知り、過去の危機事例などから学校安全対策(学校の危機管理)を考える。</p>								
授業計画 【第7回】	<p>第7回：学校の安全Ⅱ～緊急時の対応について～ 非常時の対応（主に救護法やAEDの使用法など）を知り、緊急時の対応について考える。</p>								
授業計画 【第8回】	<p>第8回：教育と社会Ⅰ～人生における学校の価値～ 現代社会における学校の重要性について知る。</p>								
授業計画 【第9回】	<p>第9回：教育と社会Ⅱ～学校（教育）の抱える課題について～ 学校内外で発生している子どもや教育の課題について考える。</p>								
授業計画 【第10回】	<p>第10回：教育と社会Ⅲ～子どもの置かれた状況の変化（少子高齢化・子供の貧困・児童虐待）～ 学校内外で発生している子どもの課題の内、特に学校外で発生している課題について知る。</p>								
授業計画 【第11回】	<p>第11回：学校と社会Ⅳ～いじめ問題とその対応（ネットいじめの課題も含む）～ 学校内外で発生している子どもの課題の内、特に学校内で発生している課題（主にいじめ問題）について知る。</p>								

授業計画【第12回】	第12回：学校と社会Ⅴ～学校と地域連携～ 学校における課題なども含めて地域における連携（チーム学校など）について知る。
授業計画【第13回】	第13回：学校と生涯学習Ⅰ～社会変化とそれに対応した教育の必要性～ ～社会変化により生涯学習が重要視されることを知る。
授業計画【第14回】	第14回：学校と生涯学習Ⅱ～学校教育と社会教育の連携～ 学校教育と社会教育の連携について知る。
授業計画【第15回】	第15回：まとめ-新しい時代の教育へ（近年の教育改革の理解） 本講義をまとめると同時に、今後の社会変革などにおける教育改革などに視野を広げ、教員として対応していく資質を高める。
授業の到達目標	① 教育と法制度との関係の理解 ② 教育・学校と社会の関わり（社会の変化による教育への影響と変化を含む）の理解 ③ 学校教育の課題（学校の危機管理を含む）の理解 ④ 地域と学校の連携の理解 ⑤ ①～④を含め教員としてのあるべき姿を考察する
学位授与の方針（DP）との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(1)
授業時間外学習【予習】	予習を行うこと（各1時間） 課題に取り組むこと（各1時間）
授業時間外学習【復習】	復習を行うこと（各1時間） ミニレポートに取り組むこと（各1時間）
課題に対するフィードバック	ミニレポートについては、フィードバックする。
評価方法・基準	①ミニレポート 45点（3点×15回） ②提出物 5点 ③個人ワーク・グループワーク 5点 ④授業への姿勢 5点 ⑤筆記テスト 40点  注意 注意1：「①ミニレポート」は、講義毎に課題を出すので、欠席・公欠の場合は後日対応すること。また、レポート課題設定の意図から講義後2週間以内に提出すること。 注意2：「②提出物」は「①ミニレポート」を除く宿題のこと、「③個人ワーク・グループワーク」は授業中の個人ワーク・グループワークについて成果物を含めた評価とする。 注意3：「②提出物」及び「③個人ワーク・グループワーク」は、それぞれの評価合計を5点満点に換算する。 注意4：再試は、筆記テスト（満点40点）に①～④の合計点（満点60点）の合計で行う。ただし、成績上限を超えた場合には成績上限の点数とする。 注意5：追試は、再試の筆記テスト問題で上記追試と同時に行うこととする。
テキスト	配布資料を用いる
参考書	教育制度論 教育六法 田中克佳 教育史 加野芳正 新しい時代の教育社会学 木村元 日本の学校受容 片桐芳雄・木村元 教育から見る日本の社会と歴史 神田嘉延 増補版『学校再生論の礎石?人間・国家・地域と学校?』 高文堂出版社 安彦忠彦・石堂常世 編著 『最新教育原理』 勁草書房
備考	本授業は、教職課程を受講する予定の学生のみ対象となります（卒業要件に含まれません）。また、資格審査のガイダンスなどをこの授業で行います。 第7回は、学校安全教育の一環として救護法・AEDなどの使用方法を予定しております。外部指導者を予定しており、指導者の都合から日程が前後したり本来の授業時間外になったりする可能性があります。この授業の際には、動きやすい服装で参加するようにしてください。